



## 健康な心と体づくり

乳幼児期においては、自分の体を十分に動かし、体を動かさず気持ちよさを感じることを通して、体を動かそうとする意欲を育てることが大切です。また、自分の体を大切にしたり、身の回りを清潔にしたりするなど生活に必要な習慣や態度を身に付けていくことも重要です。

### 具体的な取組

#### ◆基本的な生活習慣の定着

資料1

- ・乳幼児の発達の課題と個に応じた目標の設定
- ・乳幼児の生活リズム・基本的な生活習慣の定着
- ・朝食をとること、あいさつ、箸の持ち方など、家庭と連携した取組

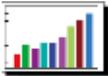
#### ◆戸外で体を動かす活動の充実

資料2

- ・十分に体を動かさず気持ちよさの体験
- ・地域の自然環境を生かした遊びの充実
- ・戸外での遊びの意欲を高める工夫や施設
- ・環境の充実

#### ◆食に関する活動の充実

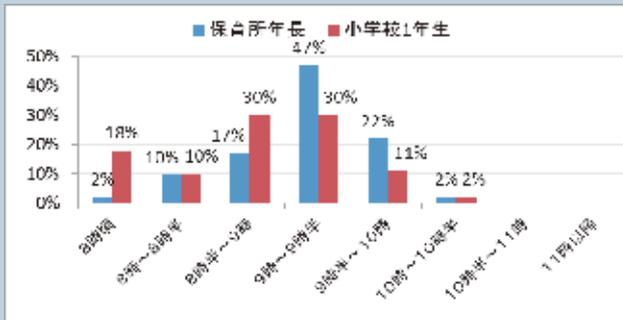
- ・和やかな雰囲気、食べる楽しさ・喜び、様々な食べ物への興味・関心
- ・家庭での食生活やアレルギーへの配慮、食べ物の大切さや感謝の気持ちを育むことへの配慮
- ・地域の食文化に触れる体験活動の工夫



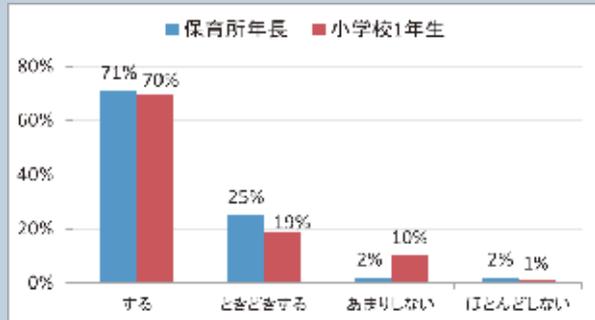
### 【生活習慣に関する調査結果】

資料1

#### 何時に寝るか

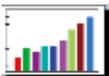


#### 朝のあいさつ



「基本的な生活習慣アンケート」（平成24年6月 岩美町スクラム教育推進委員会）より

小学校へ入学して登校する時間に合わせ、就寝時間も早くなっていると思われます。



### 【小学生の運動量の減少】

資料2



「おやこ元気アップ! 事業ブック おやこでタッチ!」(平成21年7月1日財団法人日本レクリエーション協会)より

[http://www.recreation.or.jp/kodomo/genkiup/pdf\\_dl.html](http://www.recreation.or.jp/kodomo/genkiup/pdf_dl.html)



## 体をしっかり使って遊びきるために

幼児期は、運動の基礎づくりの段階

幼児期は、日常生活での運動、表現に用いる運動、労働での運動、スポーツにおける運動といった人間の生涯にわたる様々な場面において必要な運動のもとになる基本的な動きを幅広く獲得する非常に大切な時期です。

### 3～5歳頃 様々な動きを習得する時期…多様化

「基本的な動き」のレパートリーやバリエーションを拡大させ、多様な動きの習得を促す。

### 4～6歳頃 動きが洗練される時期…量から質

身に付けた多様な動きを組み合わせたり、連続させたり、持続させたりしながら、巧みな動きの習得を促す。

### POINT

#### 【基本的な動き】

〈体のバランスをとる動き〉

立つ 座る 転がる 回る など

〈体を移動する動き〉

歩く 走る 跳ぶ 持つ など

〈用具など操作する動き〉

運ぶ 投げる 押す 掘る など

### ポイント 1

遊びに夢中になる中で様々な動きが身に付くような働きかけや環境づくりを行う。

◎積極的に戸外で活動する機会を増やしましょう。(園庭での遊び、遊具の利用)

◎発達段階や個人差に配慮しましょう。



### ポイント 2

1日合計「60分」を目安に楽しく体を動かす時間を確保する。お手伝いもOK。

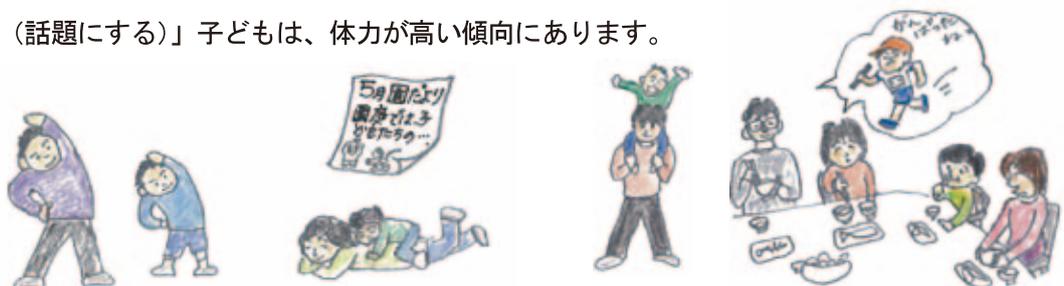


### ポイント 3

家庭への啓発のため、子どもたちが園で夢中になっている遊びなどを伝える。

◎家庭で家族と一緒にスポーツを「する・みる」、スポーツについて

「話す(話題にする)」子どもは、体力が高い傾向にあります。



(参考)「幼児期運動指針」(平成24年3月30日 文部科学省)

[http://www.mext.go.jp/a\\_nenu/sports/undousisin/1319772.thm](http://www.mext.go.jp/a_nenu/sports/undousisin/1319772.thm)



## 自立心と人とかかわる力

園生活においては、乳幼児と保育者との信頼関係を築くことが何より必要です。それを基盤にし  
ながら、様々なことを自分の力で行うことの充実感や満足感を味わいます。また、他の乳幼児や保  
育者と触れ合うことを通して、人とかかわることの楽しさを味わったり、きまりの大切さに気付き  
守ろうとしたりする中で、自立心が育っていきます。

### 具体的な取組

#### ◆様々な人とかかわりを深める活動の充実

- ・近所の人、働く人など地域の人との交流
- ・異年齢の幼児、小・中・高校生、高齢者、外国人との交流
- ・地域の特別支援学校との交流
- ・愛情や信頼関係、自己肯定感を育む活動の工夫
- ・協同する経験を重ねることの工夫



～おばあちゃんって、やさしいなあ～

#### ◆道徳性の芽生えを培う活動の充実

- ・発達段階に応じた集団遊びなどによる人とかかわり合いを経験する活動の工夫
- ・遊びを通じた善悪の判断や友だちへの思いやりの心の育成

#### ◆規範意識の芽生えを培う活動の充実

- ・体験を重ねながらきまりの必要性に気付き、自分の気持ちを調整する力の育成

## 思考力の芽生え

幼児期は、身近な自然などの環境との触れ合いの中で、様々な事象に興味や関心をもっていきま  
す。その中で、友達と一緒に試したり工夫したりすることの楽しさや喜びを感じます。このような  
体験を繰り返すことで、幼児は周囲の環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、考えることの楽し  
さや面白さに気付き、自ら考えようとする気持ちが育っていきます。

### 具体的な取組

#### ◆心が揺さぶられる体験の充実

- ・自然と触れ合う体験の中で、好奇心・探究心を育成
- ・「なんだろう?」「なぜかなあ?」という問いが生まれる体験の保障
- ・幼児同士のかかわりの中で、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを  
味わえる環境づくり



～どうすれば大きなシャボン玉  
ができるのかなあ～

### POINT

友達と一緒に遊ぶ中で、友達の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、  
自ら考えようとする気持ちが育つようにすることが大切です。



## 言葉の獲得

経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことが大切です。幼児に適切な言葉の使い方を伝えていくため、幼児をとりまく言語環境を豊かにするように努める必要があります。

### 具体的な取組

#### ◆言葉による伝え合い

- ・自分の思いを言葉で伝えようとする意欲の育成
- ・人の話を注意して聞こうとする態度の育成
- ・子どもを引きつけるような話し方や内容の工夫



～おはなしの世界に引き込まれて～

#### ◆絵本や童謡などに親しむ活動の充実

- ・地域に伝わる民話・わらべうた・伝承遊び、童謡唱歌などを取り入れた活動の工夫
- ・絵本や紙芝居の「読み聞かせ」の充実
- ・「絵本コーナー」など絵本への興味・関心を高める環境づくり
- ・公共図書館・近隣の学校図書館などを活用した活動の充実

### POINT

《言葉による伝え合い》・・・伝え合いには2つの要素が必要です。

- 自分の思いや考えたことを言葉で表現すること
- 相手の話を興味をもって注意して聞き、次第に理解できるようになること

発達段階に応じて、子どもの話すことを受け止める、子どもが興味を持ったことを話すようにする、話しやすい話題を提供する、小グループで話すようにするなど工夫しましょう。

5歳児後半に向けて、話し合いの場面やみんなの前で話す機会を持つことにも配慮しましょう。

## 表現する力

乳幼児は様々なものに出会い、心を揺さぶられて感動すると、感じたままを表そうとします。その表れを保育者が受け止め、認めることが大切です。そうすることで、表現することの楽しさや喜びを感じ、表現への意欲が高まります。

### 具体的な取組

#### ◆表現する過程を楽しめるような工夫

- ・遊具や用具などの環境構成の工夫
- ・他の子どもの表現に触れられるような配慮
- ・表現を楽しむ気持ちや表現しようとする意欲の育成



～一人一人の表現が繋がって～



#### ～色鮮やかな木の実～

幼児が思わず手に取ってみたいくなるような素材を準備することが表現意欲を高めます。

### POINT

表現で大切なことは、自分なりに表現することです。できばえではなく、表現する過程を楽しめるように工夫しましょう。

## 基本方針（1）幼稚園教育要領・保育所保育指針に沿った幼児教育・保育の展開

### 目標③ 学校評価・自己評価の実施

幼児教育・保育の質の向上のために、実践を常に振り返り、幼児教育・保育の充実・改善につながる評価の実施を推進します。

#### 【推進のための具体的な取組】

##### 【県】

- 評価の必要性の理解推進 資料 3
  - ・評価のガイドラインの周知  
（「幼稚園における学校評価ガイドライン」・「保育所における自己評価ガイドライン」）
  - ・研修会の開催
  - ・専任指導主事、保育専門員の園訪問による支援・助言

##### 【設置者】

- 研修会を開催しましょう。
- 評価の実施と公表を進めましょう。
  - ・園訪問による支援・助言

##### 【幼稚園・保育所・認定こども園】

- PDCAサイクルに基づいて積極的に学校評価・自己評価を実施しましょう。
- 評価の結果を公表し、幼児教育・保育の改善につなげましょう。
- 保護者や地域の人に園の行事や取組を積極的に発信しましょう。

# 評価を保育の改善につなぐために

資料 3

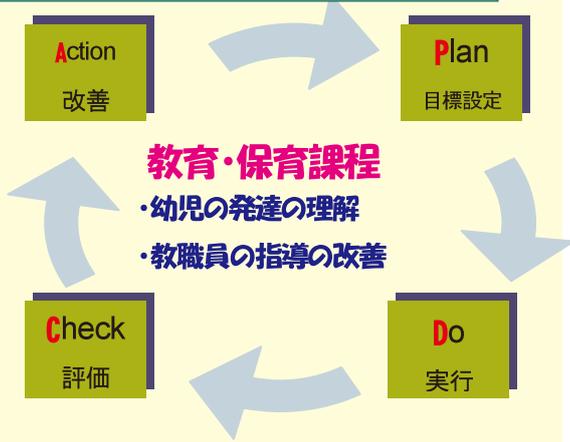
## 目的

- ◆園運営の組織的・継続的な改善
- ◆園・家庭・地域の連携協力による園づくり
- ◆一定水準の教育・保育の質の保証と向上

## PDCAサイクルに基づいた自己評価

下図は、保育の目標設定（P）—実行（D）—評価（C）—改善（A）からなる循環的なシステムのモデルを示したものです。この一連の流れは、教員・保育士等の個人によって行われるものと、幼稚園・保育所として行われるものがあります。目標達成に向けて、PDCAサイクルに基づいて組織的・継続的に改善していくことが大切です。

## 評価のPDCAサイクルとは・・・



## 幼稚園・保育所における自己評価の比較

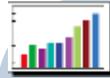
	幼稚園	保育所
類型	学校型 学校型方法 学校型方法巡回型	児童福祉系 保育所保育課程 (EPA-保育所)
評価の目的	改善	能力定評
評価の項目	設定した目標を具体的に達成しているかどうか。その達成状況の達成に向けた取組の進捗状況等について	保育の計画の展開や保育士等の自己評価等について
結果の扱い	公表 保護者に報告	公表

参考 「幼稚園における学校評価ガイドライン」 (平成23年11月15日 文部科学省)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/23/11/1313246.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/11/1313246.htm)

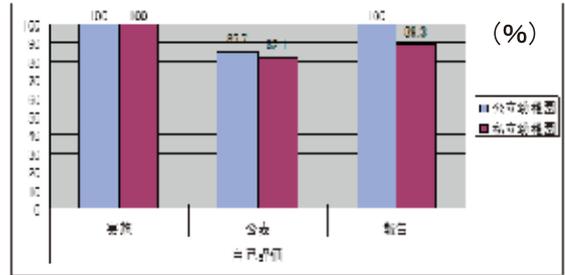
参考 「保育所における自己評価ガイドライン」 (平成21年3月 厚生労働省)

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/hoiku/index.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/hoiku/index.html)



## 【鳥取県における自己評価の実施状況】

公私別幼稚園の自己評価実施状況 H23 (%)



平成23年度学校教育実施状況調査・  
平成23年度子育て応援課調査より

## 【保護者への自己評価結果 公表例】

### 「保護者への自己評価結果 公表例」

「子どもが育つこと」は、園取組の主眼であるが成果が十分でない、取組の効果が十分でない」が全体の70.4%ありました。同時に幼稚園長からは、もっと進んでいる人にも関わることができるよう、大人も育つ環境づくりが必要だと感じています。

「相手の目を見て挨拶」などは、幼稚園内ではできています。常に心が合っているから、「話す・聞く」の習慣をつけることが成果につながっていると感じます。

＜発表＞  
今年度の重点目標の取組みの結果から、成果が十分でない項目について職員間で十分に協議し、来年度に向けて取組みの改善策を立案し、目標立て実践してまいります。具体的【来年度に向けて】①生活リズムを整える、(早起・早起きの推進) ②他園での取組を参考に、(保育士間の連携) ③保育を推進する。 ④保育を推進する。

今年度も、平成23年度の取組みの成果を公表いたします。その際、保護者の意見や要望、アンケート結果などを踏まえ、次年度の取組の改善策を示しています。

保護者アンケートを実施し、その結果を公表しています。その際、保護者の意見や要望、アンケート結果などを踏まえ、次年度の取組の改善策を示しています。

## POINT

学校評価・自己評価は組織で行うことが重要です。また、重点的に取り組むことが必要な目標を達成するために必要な項目・指標等を設定することが重要です。